

アセアン
経済統合

保険業界にどんな影響が？

IAIS「保険資本基準」策定めざす
20周年

2014年は多忙な年であった。

NYを拠点に年間24カ国、昨年10月〜12月の3カ月間だけで、日本を含む10カ国を訪れた。あまりにもグローバルだった筆者の第4四半期の足跡を振り返ると共に、保険業界をめぐる国際的な動向を概観してみたい。

まず、10月1日シンガポールでのASEAN保険サミット。ASEAN地域の監督当局、業界団体、保険会社、コンサルタントなどがマリナ・ベイ・サンズに集結し、2015年のASEAN経済統合の保険業界における影響などを議論した。ここで

は総会講演において、アジア太平洋地域における課題と提言に関する総括を行った。
日本を經由し、次に飛んだのはクアラルンプール。
台風の日本列島直撃をくぐり抜け、アジア生命保険振興センター(OOLIS)、マレーシア生命保険協会(LIAM)、マレーシア保険研究所(MII)の共催セミナー(10月8日)で、生保会社のリスク管理、低金利・少子高齢化に関する講演を行った。いったんNYに戻り、次に飛んだのは欧州。
ロンドンで国際会計基準について意見交換の後、

アムステルダムのアムステルダム監督者国際機構の年次大会(10月20〜24日)へ。
IAISは昨年設立20周年を迎え、組織体制を一新することを決定した。オブザーバー制度は廃止し、利害関係者(ステークホルダー)として招かれる場合



東アジア保険会議に参加した大久保氏

を除き、原則として業界関係者は参加できなくなる。
記念すべき最後のIAIS年次大会参加となるかもしれない。今回の年次大会ではホルフェルト元事務局長、ユッパ元会長らと共に20周年記念式典のパネリストを務め、事務局OBの1人として、IAISにまつわる想

い出、IAISの過去、現在、IAISでは2016年までにグローバルな保険資本基準(ICR)の策定をめざしておられる。IAIS会議での一番の目玉であった。オプザバーヒアリングでは、欧州、アジア、北米、グローバルな地域を代表するグループが意見発信を行ったが、ローカルな制度との整合性の重要性、長期ビジネスに対する影響の懸念などの点ではほぼ一致していた。

少子高齢化でのチャンスも強調

その足でアジアへ。

東京で開催されたアジア太平洋金融フォーラム(APFF)(本紙2013年11月22日号参照)の保険年金作業部会(10月28日)に座長として参加するために。

当作業部会の主な目的は、保険会社や年金基金が長期資金の提供を行い、金融の安定化、経済およびインフラの発展を支え、高齢化社会のニーズにこたえるための政策・規制枠組み・インフラなどの構築のサポートや年

在、未来に関する見解を披露した。
パネルでは、IAISにおける対話の重要性、地域における官民の垣根を超えた連携の重要性、金融安定化の観点に加わった一方、「保険契約者保護」という本来の役割を忘れるべきではないとのメッセージを伝えた。

現在、IAISでは2016年までにグローバルな保険資本基準(ICR)の策定をめざしておられる。IAIS会議での一番の目玉であった。オプザバーヒアリングでは、欧州、アジア、北米、グローバルな地域を代表するグループが意見発信を行ったが、ローカルな制度との整合性の重要性、長期ビジネスに対する影響の懸念などの点ではほぼ一致していた。

金制度の発展に資する提言を行うことである。
10月22日に北京でAPEC財務大臣によって承認されたAPFFの中間報告書には、アジア太平洋地域の保険業界の長期ビジネスに影響を及ぼす規制、および会計問題や長寿化をめぐる解決策に対する対話、インフラを含む長期投資の促進におけるAPEC財務相プロセスとの協力というアクションプランが含まれている。

また、新たなテーマとして、

NAIC(全米保険監督協会)秋季大会(11月16〜18日)に参加し、国際関係の動向をフォローしている。

3カ月で10カ国訪問、グローバルな議論に参加

日本 生命 ニューヨーク事務所 大久保亮

「Mackはなんで保険業界にいるの? コメディアンになつたらいいのに」
洋の東西を問わず、いろんな人にこう言われます。いろんな国でいろんなジョークを披露してきましたが、2014年、特に注目されたのは英語の訛りのモノマネ芸でした。これまで16種類程度の英語のモノマネを披露するのが通例だったのですが、IAIS20周年式典では、数字に囚われて20種類に増やすことにしました。珈琲タイムに各国代表と会話をしながら取材(笑)。新たにケニア、ニュージーランド、ロシア、中国を追加。即席でやったにもかかわらず、反応は上々。

「Mackの世界」にどうぞ!

その後に開催されたアジア会議では、参加者がまたモノマネを期待している事態に(笑)。インドネシアやブルネイ、カンボジアもやってほしいというリクエストも。区別つきですか?
プライベートでも、主に青山学院大学の留学生向けに、言語や文化の違いが意思決定や情報伝達に与える影響に関するグローバル・コミュニケーションのゲスト講師を英語でやったり、中学英語のおさらいや語順やリズムの攻略を通じて使える英語を身につけるための英語セミナーも開催しました。そこでもアイスブレイクにモノマネ芸は定番です。
アジア太平洋地域やグローバルな保険業界に関する最新情報、プレゼンテーションや講演の動画(ジョーク入り)、世界各国で撮ったフォトギャラリー、語学・コミュニケーション、アート特集など、Mackの世界をご紹介します新しいウェブサイトを立ち上げました。関心ある方は是非♪
<http://www.mackglobe.com>

「逆ザヤ問題」克服でプレゼン

NYに舞い戻り、ピアノのリサイタルで「雪の華」と「千と千尋の神隠し」のテーマを演奏。

米国内で意見調整しながら国際的に働きかけを行うアプローチをとっている。

米連邦議会下院金融委員会の公聴会にも飛び入り参加。連邦および州当局の代表が呼ばれ、国際基準が米国保険会社の競

た。そして台北へ。

アジア諸国の保険業界・当局が一堂に会する東アジア保険会議(11月2〜4日)に参加するた

めである。当会議では「医療費高騰の中で急速に進展する高齢化社会における生保の将来像」と題したパネルに参加した。ここでは、各国の年金

制度の違いや長期性をふまえた規制の重要性、少

子高齢化は生命保険ビジネスに影響を与えるが、豊富な資産を有している

高齢者のニーズを的確に捉えれば保険会社にとってビジネスチャンスとなることなどを取り上げた。

パネルの後、そのまま空港へ。北京に飛ぶため

争力に及ぼす影響についての質疑応答がなされた。そのままNAIC(全米保険立法者会議)年次大会(11月20〜21日・サンフランシスコ)、APEC(官民パートナーシップパネル(11月24日・ジャカルタ)、ASEAN保険会議(11月26日・ブルネイ)を

ハシゴした。いずれもAPFF保険年金作業部会の

座長としての活動である。

そして、2014年の海外出張を締めくくったのはパリのOECD(経済協力開発機構)のラウンドテーブル(12月3〜5日)。

「注 なお文中意見に関する部分については、筆者の個人的な見解であって、所属する団体の見解を代表するものではない。」

おおくぼ・まこと 1988年日本生命入社。フランスのアッシュ・ウ・セ経営大学(HEC)に留学後、ニッセイ基礎研究所ニューヨーク事務所にて5年間、米国とカナダの金融制度を調査。個人で立ち上げたInsuranceFinance.comは今も90カ国以上で利用される人気サイト。国際会計基準に関する国内外での活動を経て、2002年4月から金融庁派遣で保険監督者国際機構(IAIS)の事務局へ。06年7月から日本生命国際業務部。08年1月より調査部、13年3月末からニューヨーク駐在。